

決算からみる 名寄市のすがた

令和7年度の決算がまとまり、令和8年第3回市議会定例会で認定されました。

令和7年度の決算の概要と市の財政状況についてお知らせします。

問 財政課（名 3332）

令和7年度の一般会計は、皆さんから納めていただいた市税や、国からの交付金などの入ったお金（歳入）は、299億3,426万8千円でした。ここから、中学校の整備事業、公共施設の空調設備整備、道路・水道などのインフラ整備に加え、物価高騰対策など、さまざまな事業に使ったお金（歳出）は296億2,093万9千円となり、差し引き（形式収支）は3億1,332万9千円の黒字となりました。

翌年度に使う分を差し引いても（実質収支）3億913万3千円の黒字となりますが、令和7年度の市の貯金（財政調整基金など）の増減を加味（実質単年度収支）すると、貯金を使った額が積立額より大きかったことから、3億7,702万5千円の赤字となっています。

※一般会計…地方公共団体が市税や地方交付税などを財源として福祉や教育などの行政サービスを行うための会計

歳入 299億3426万8千円	市税（10.8%）	32億3,542万4千円	市民税・固定資産税など
	地方交付税（35.7%）	107億191万7千円	どの地域に住む住民にも一定の行政サービスを提供できるように国から交付されるお金
	国・道支出金（19.0%）	56億9,462万8千円	児童手当、生活保護費や道路、公営住宅建設に伴う負担金など
	市債（16.4%）	49億210万円	主に公共施設整備のための長期の借入金
	繰入金（6.2%）	18億4,257万1千円	基金（貯金）の取り崩し
	その他（11.9%）	35億5,762万8千円	使用料利用料、寄付金など

一般会計の歳入は、299億3426万8千円となり、前年度に比べ43億6150万8千円の増となりました。「市税」は市たばこ税を除く全ての税目が増となり2億413万6千円の増、「地方交付税」は社会福祉費や人件費の増などにより3億6910万9千円の増、「国・道支出金」は社会福祉や学校施設整備などにより6億8614万2千円の増、「市債」は廃棄物中間処理施設などや中学校整備事業の増などから31億1971万9千円の増、「繰入金」は財源の調整や事業目的に応じて基金を繰り入れたことから1億5750万の減、また、「その他」に含まれるふるさと納税寄附金はリピーターの獲得などから7842万1千円の増となりました。

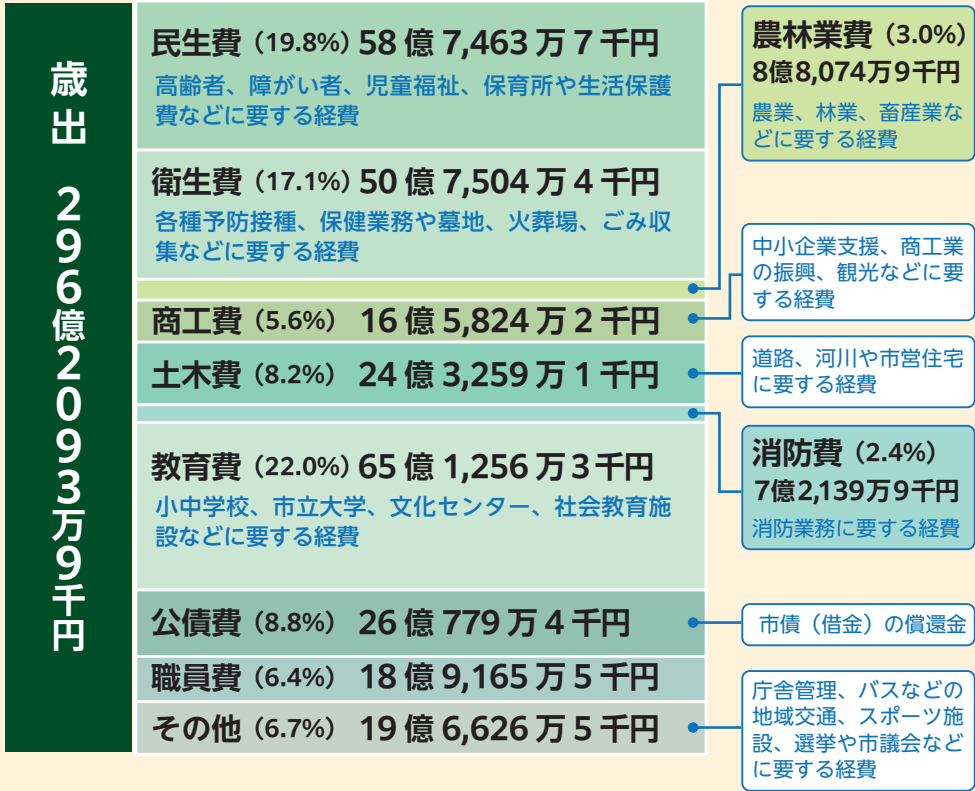
一般会計決算 歳入

令和7年度の主な事業



一般会計決算
歳出

一般会計の歳出は、296億2093万9千円となり、前年度に比べ44億8036万9千円の増となりました。主な増減理由として、「民生費」は認定こども園の外構工事の完了などにより1億1133万3千円の減、「衛生費」は廃棄物中間処理施設などの建設工事に伴う衛生事務組合への支出増から13億5927万6千円の増、「商工費」は補助事業や観光施設整備事業の増から5億3856万6千円の増、「土木費」は道路改良や市営住宅整備から4億9540万1千円の減、「公債費」は市債の償還額の増から5520万8千円の増となりました。



特別会計・企業会計

※特別会計…特定の事業やサービスを提供するために、利用者からいただいた保険料や使用料などを財源として事業を運営するために設けられた会計
※企業会計…自ら事業を行い、その事業で得た財源で運営する、民間企業と同様の経理をする会計

会計区分			歳入決算	歳出決算	差引
特別会計	国保	保険事業勘定	24億4,959万1千円	24億3,218万9千円	1,740万2千円
		直診勘定	1億9,816万2千円	1億9,816万2千円	—
	介護	保険事業勘定	30億550万5千円	28億4,432万6千円	1億6,117万9千円
		サービス事業勘定・名寄	4億3,788万2千円	4億3,788万2千円	—
		サービス事業勘定・風連	7億3,058万5千円	7億3,058万5千円	—
	食肉センター事業		7,664万1千円	7,664万1千円	—
	後期高齢者医療		5億1,324万5千円	5億1,324万5千円	—
	市立大学		19億3,065万4千円	19億3,065万4千円	—
企業会計	病院事業会計		103億8,615万4千円	112億2,814万4千円	
	水道事業会計		6億9,921万8千円	6億7,351万3千円	
	下水道事業会計		11億9,984万8千円	11億5,974万2千円	

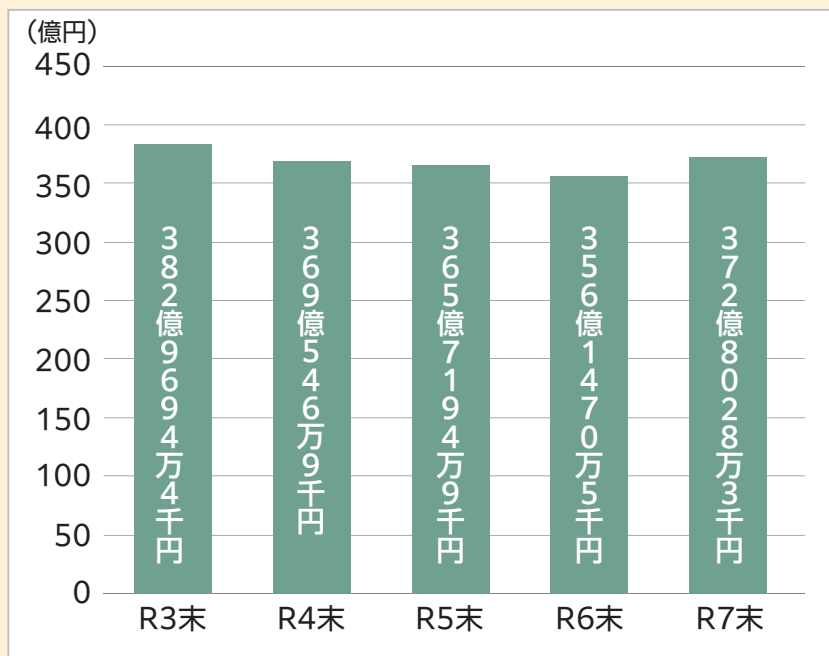
市債（借金）の状況

令和 7 年度の市債残高は、約 373 億円
昨年度と比較して約 17 億円の増加

令和 7 年度の市債残高は、廃棄物中間処理施設整備事業や名寄地区中学校整備事業などの大型事業を行ったことから昨年度と比較して約 17 億円増の約 373 億円となりました。

市債にはさまざまな種類があり、借入額や返済額に応じて地方交付税が交付される有利な市債があります。令和 7 年度に一般会計で借り入れた約 49 億円のうち、約 33 億円が後年度の地方交付税に算入され、国から交付されることとなります。このような有利な市債を最大限活用し、将来的に負担が少なくなるよう事業を行っており、今後も将来を見据えた市債や基金の適正な管理に努めてまいります。

市債残高の推移



基金（貯金）の状況

令和 7 年度の基金残高は、約 75 億 2 千万円
昨年度と比較して約 10 億円の減少

基金には、財政の健全な運営のための財政調整基金のほか、借金の返済に充てるための減債基金など、特定の目的のための基金があります。

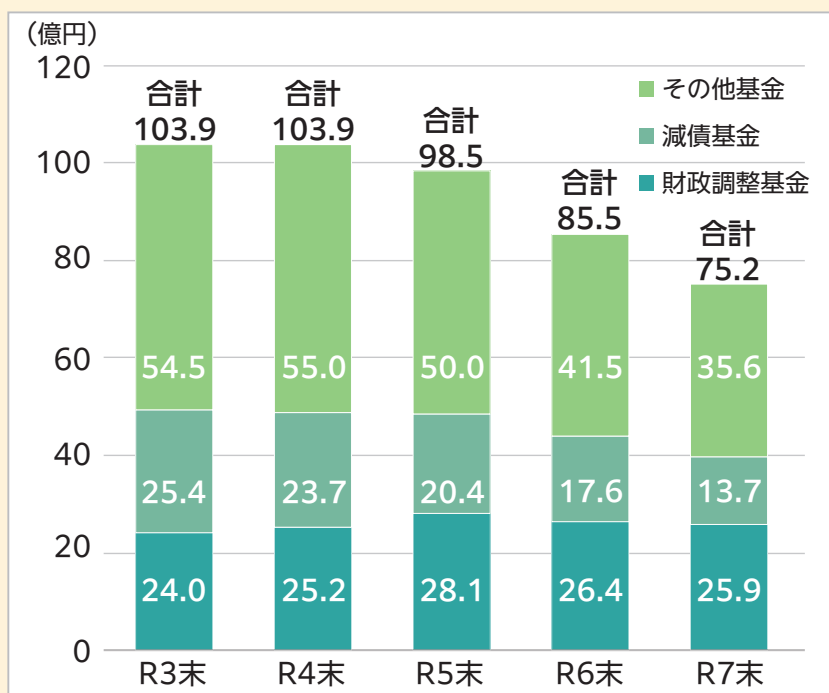
令和 7 年度の基金残高は、今後の財政運営の備えとして約 7 億 8 千万円を積み立てましたが、各基金の目的に沿った事業の財源を補うため基金の取り崩しを行ったことにより、昨年度と比較して約 10 億円減少の約 75 億 2 千万円となりました。

その他基金には・・・

- ・ 公共施設整備基金
- ・ 名寄市立大学振興基金
- ・ 文化センター大ホール基金
- ・ 合併特例振興基金

などがあります

基金残高の推移



健全化判断比率

令和 7 年度決算では、いずれの指標も早期健全化基準を下回り、安全圏内

令和 7 年度決算における名寄市の健全化判断比率は、昨年度より数値が増加した項目があるものの、早期健全化基準（黄色信号）を下回っており、安全圏にあります。

指標名	説明	名寄市	早期健全化基準 (黄色信号)	財政再生基準 (赤信号)
実質赤字比率	一般会計の赤字の比率	—	12.95%	20.00%
連結実質赤字比率	全会計（一般会計、特別会計、企業会計）の赤字の比率	—	17.95%	30.00%
実質公債費比率	地方債（借金）の返済比率	9.8%	25.00%	35.00%
将来負担率	市の借入金（地方債）や将来支払っていく可能性があるお金の割合	34.9%	350.00%	

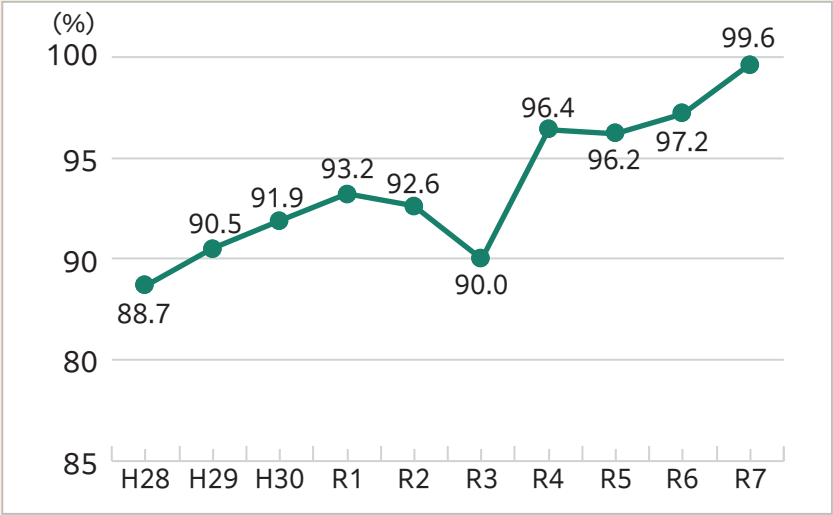
※「—」表示は実質赤字額がないことを表しています。

経常収支比率

一般会計の経常収支比率は 99.6%
財政の弾力性を示す指標。100%に近づくほど、行政上新たな事業に対応できる余地が少なくなる

一般会計の経常収支比率は 99.6% となりました。この比率は財政の弾力性を示す指標であり比率が高いほど（100%に近づくほど）、行政上新たな事業に対応できる余地が少ないことを示しています。

令和 7 年度は物価高騰や人件費の上昇から物件費や委託料などが増加したことから、前年度に比べ、2.4%増加となりました。業務内容の見直しなどにより、経常的な経費の抑制と歳入の確保に努めてまいります。



名寄市の財政 ～まとめ～

令和 7 年度は、物価高騰によりさまざまな費用が値上がりし、過去最大の決算額となりました。令和 8 年度も中学校や廃棄物中間処理施設などの大型建設事業が続いていますので、将来世代に大きな負担を残さないよう、市債や基金の計画的活用とともに、事業の内容や手段の見直し、財源の確保にしっかりと取り組み、健全な財政運営に努めてまいります。